

# 保険・年金 フォーカス

## アジア生命保険市場の概況・展望 —中長期の市場動向のダイナミックな変化を踏まえて—

保険研究部兼経済研究部 主席研究員アジア部長/新潟大学大学院教授 平賀 富一  
(03)3512-1822 hiraga@nli-research.co.jp

### はじめに

本稿では、最近公表されたスイス再保険およびミュンヘン再保険によるレポートなどの分析・考察を踏まえて、まず、2016年のアジア生保市場の動向を概観し、次いで同市場の短期見通しと中長期の展望等について述べる。

次いで、2007年から2016年のスパンにおける、アジア生保市場における変化という視点で、①アジアの国・地域別の位置づけの変化、②アジアの先進生保市場である日本と NIES4(韓国・香港・台湾・シンガポール)の生保普及度の進展、③アジアの二大生保市場たる日本と中国の市場規模の推移について考察する。

本年(2017年)は、アジア経済に大きなダメージを与え、その後の各国の経済・社会構造の変化への一大転機となったアジア通貨・金融危機(1997年7月1日のタイ・バーツの為替レートの急落が発端)から20年の節目を迎える。そこで、本稿の最後のパートでは、同危機で特に大きなダメージを受けたASEAN(東南アジア諸国連合)の3ヶ国(マレーシア・タイ・インドネシア)について、生保市場の有力プレーヤー(企業)の顔ぶれやマーケットシェアについて、特に外資系企業のプレゼンスの拡大という観点から、同危機の前(1996年)と近年(2015年)の状況を比較・検討する。

以下の記述では、アジア生保市場として、NIES4の「先進アジア」: Advanced Asia)、とそれ以外の「新興アジア」(Emerging Asia)を必要に応じて区分して論じている。新興アジアには、ASEAN(特に、マレーシア・タイ・インドネシア・フィリピン・ベトナムを「ASEAN5」と総称)と中国、インド、その他のアジア諸国が含まれる(また、NIES4、ASEAN5と中国・インドの合計を「アジア11計」と表記している)。

# 1—アジア生保市場の動向・変化

## 1 | 2016 年のアジア生保市場の概況

図表－1 アジア主要国・地域の経済・生保の主要指標（2016年）

	人口 (万人)	GDP関連指標				生保収入保険料				一人当たり保険料 (ドル)	保険料/GDP (%)
		名目GDP (10億ドル)	構成比(%)	1人当たりGDP(ドル)	実質GDP 対前年成長率	保険料(百万ドル)	構成比(%)	対前年比 (ドルベース)	対前年比 (現地通貨ベース)		
韓国	5,080	1,414	1.9	27,835	2.7	104,169	4.0	2.8	2.2	2,050	7.4
香港	740	321	0.4	43,378	1.9	51,940	2.0	25.9	26.1	7,066	16.2
台湾	2,350	508	0.7	21,617	1.4	84,493	3.2	6.1	7.5	3,599	16.7
シンガポール	560	297	0.4	53,036	2.0	17,557	0.7	7.6	8.1	2,895	5.5
NIES4国・地域計	8,730	2,540	3.4	29,095	-	258,159	9.9	-	-	2,957	10.2
マレーシア	3,080	292	0.4	9,481	4.2	9,189	0.4	2.6	6.7	298	3.2
タイ	6,820	407	0.5	5,968	3.2	15,131	0.6	2.6	5.8	222	3.7
インドネシア	26,090	933	1.2	3,576	5.0	15,299	0.6	29.2	28.3	59	1.3
フィリピン	10,240	305	0.4	2,979	6.8	3,742	0.1	▲ 7.2	▲ 3.2	37	1.4
ベトナム	9,440	205	0.3	2,172	6.2	2,053	0.1	22.5	25.0	22	0.8
ASEAN5計	55,670	2,142	2.8	3,848	-	45,414	1.7	-	-	82	2.1
中国	138,290	11,234	14.9	8,124	6.7	262,616	10.0	24.6	31.7	190	2.3
インド	132,880	2,272	3.0	1,710	7.0	61,817	2.4	10.3	13.4	60	2.7
アジア11計	335,570	18,188	24.1	5,420	-	628,006	24.0	-	-	187	3.5
日本	12,650	4,654	6.2	36,791	1.0	354,053	13.5	3.9	▲ 6.2	2,803	7.2
米国	32,400	18,503	24.6	57,108	1.5	558,847	21.4	0.7	0.7	1,729	3.0
欧州	82,090	19,768	26.2	24,081	1.6	858,607	32.8	▲ 2.8	-	962	4.0
中南米	63,660	5,135	6.8	8,066	▲ 1.0	69,212	2.6	4.1	-	109	1.4
世界合計	741,420	75,335	100.0	10,161	2.5	2,617,016	100.0	2.8	-	353	3.5

(資料) スイス再保険(2017)より筆者作成

2016年のアジアの生保市場は、特にインドネシア・香港・中国・ベトナム・インド等の高い伸び率に牽引され概ね順調に成長した。

先進アジア市場の一角である香港は、中国本土からの訪問者による生保加入(新規契約保険料の1/3以上を占める)が市場拡大の大きな要因となった。

新興アジア市場では、中国で、料率の自由化による無配当の貯蓄型の保険を中心とする販売増および保険監督の当局(保険監督管理委員会)による長期貯蓄性保険や保障型保険の販売強化方針の影響等により大幅な販売増となった。その他、インドネシア・ベトナムでは保険意識の向上とバンカシュアランス(銀行チャネルでの保険販売)での販売好調が高伸長の要因として指摘されている。また、インドでは、不動産や金等への投資に代えて金融商品への投資が増える中で、即時年金の人気の高まったことが生保市場の伸びに大きく寄与した。フィリピンのみが対前年減少しているが、これは2015年に主に一時払の投資型保険の販売増によって非常に高い伸び率を記録した反動とみられている。

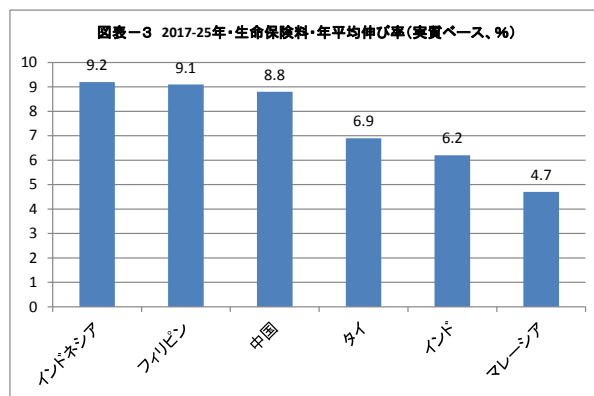
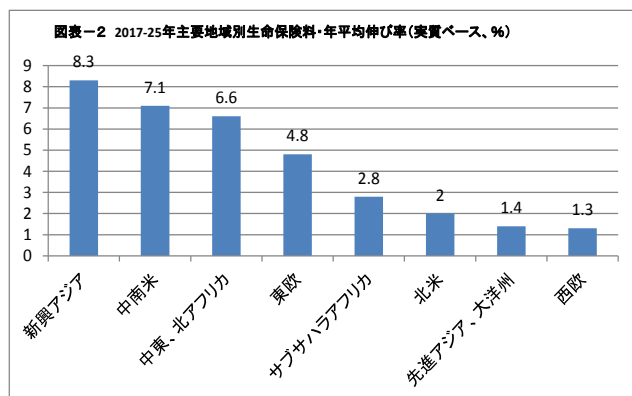
## 2 | 今後の見通しと中長期の展望

スイス再保険(2017)およびミュンヘン再保険(2017)やAsia Insurance Review各号の記事を参考にして、足元1-2年の見通しと中長期の展望をみると以下のとおりである。

今後1-2年の見通しでは、まず、先進アジア市場では、低金利環境により、金利面で魅力のある商品(特に投資型・貯蓄型商品)の提供が難しいと考えられ高成長は期待しにくいと見込まれている。さらに、香港では、中国による資本規制の強化により中国本土客による保険加入の動きが鈍化する可能性がある。次に、新興アジア市場では、インターネットによる販売やバンカシュアランスによる販売の増加、保障型商品の販売増とい

った要因により、多くの国で二桁の高い伸び率が予測(ミュンヘン再保険によれば、2017年・2018年で各年13%増)されている。ただし、中国では、当局による短期の資産運用商品の販売の抑制方針もあり2016年の高い増加率よりは鈍化するとみられている。

2017-2025年の中長期予測について、ミュンヘン再保険(2017)によれば、世界の生保市場全体で、年平均5%(実質ベースで3%)程度の伸び率が予測される中、図表-2のとおり、新興アジアが8.3%(実質ベース)と大きなけん引役となるとみられている。生活水準の向上と、保険カバーの増加ニーズがその大きな要因である。新興アジアの国別の伸び率は図表-3の予測値となっている。



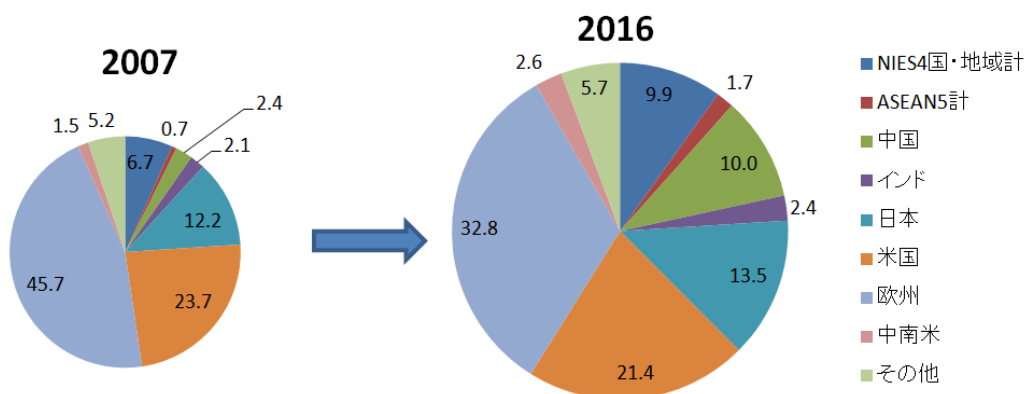
(資料) ミュンヘン再保険 (2017)

## 2—2007年から2016年のアジア生保市場における変化

20年のスパンでの、アジア生保市場における推移・変化について、①アジアの国・地域別の生保市場の位置づけの変化、②先進アジア市場(日本とNIES4)での生保普及度の変化、③域内の最大市場・第二位市場である日本・中国の生保市場としての規模の推移を見ることとする。

### 1 | アジアの国・地域別の生保市場の位置づけの変化

図表-4 2007年/2016年の国・地域別生保保険料構成比(%)



(資料) スイス再保険会社「Sigma No3/2017」、「Sigma No3/2008」により筆者作成

(注) 世界計の生保収入保険料:2007年2兆4,418億ドル、2016年2兆6,170億ドル

図表-5 2007年/2016年 生保・保険料関連主要諸指標の比較

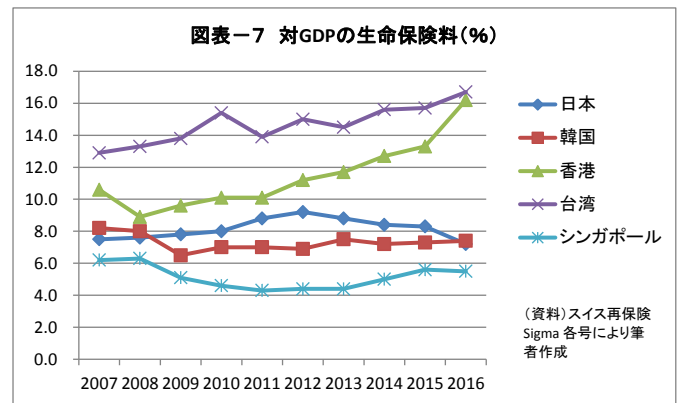
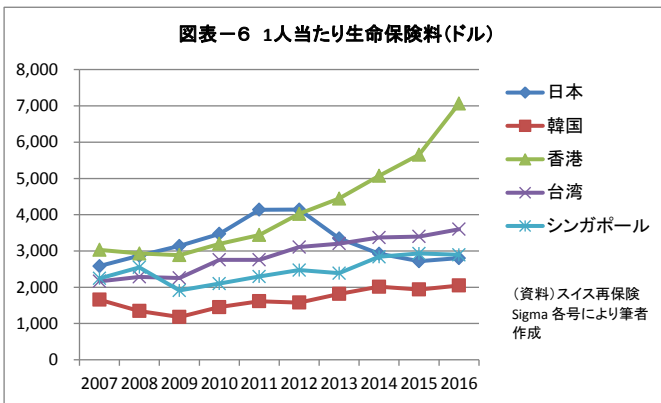
	名目GDP構成比 %			生保保険料構成比 %			生保保険料/人ドル			生保保険料/GDP %		
	2007	2016	増減	2007	2016	増減	2007	2016	増減	2007	2016	増減
NIES4国・地域計	3.2	3.4	0.1	6.7	9.9	3.2	1,941	2,957	1,016	9.3	10.2	0.9
ASEAN5計	2.0	2.8	0.8	0.7	1.7	1.1	34	82	48	1.5	2.1	0.6
中国	5.9	14.9	9.0	2.4	10.0	7.6	44	190	146	1.8	2.3	0.5
インド	2.2	3.0	0.9	2.1	2.4	0.3	43	60	17	4.0	2.7	▲ 1.3
アジア11計	13.3	24.1	10.8	11.8	24.0	12.2	94	187	94	4.0	3.5	▲ 0.5
日本	8.1	6.2	▲ 2.0	12.2	13.5	1.4	2,584	2,803	219	7.5	7.2	▲ 0.3
米国	25.5	24.6	▲ 1.0	23.7	21.4	▲ 2.4	1,922	1,729	▲ 193	4.2	3.0	▲ 1.2
欧州	36.3	26.2	▲ 10.1	45.7	32.8	▲ 12.9	1,223	962	▲ 261	5.0	4.0	▲ 1.0
中南米	6.3	6.8	0.5	1.5	2.6	1.2	63	109	46	1.0	1.4	0.4
その他地域	10.4	12.1	1.7	5.2	5.7	0.5	70	69	▲ 1	2.2	1.6	▲ 0.6
世界計	100.0	100.0		100.0	100.0		331	353	22	4.4	3.5	▲ 0.9

(資料) スイス再保険会社「Sigma No3/2017」、「Sigma No3/2008」により筆者作成

図表-4・5により、2007年と2016年における世界の主要国・地域の生保市場の変化について、生命保険料の構成比の観点から見ると、中国(+7.6%)、NIES4(+3.2%)をけん引役として、アジア11計の構成比が12.2%増加している反面、欧州(▲12.9%)と米国(▲2.4%)が減少している。また、1人当たり生命保険料と対GDPの生命保険料の比率について、2007年時点で既に高水準にあったNIES4がさらに増加しているのが特徴的であり、次いで中国、ASEAN5も増加している。

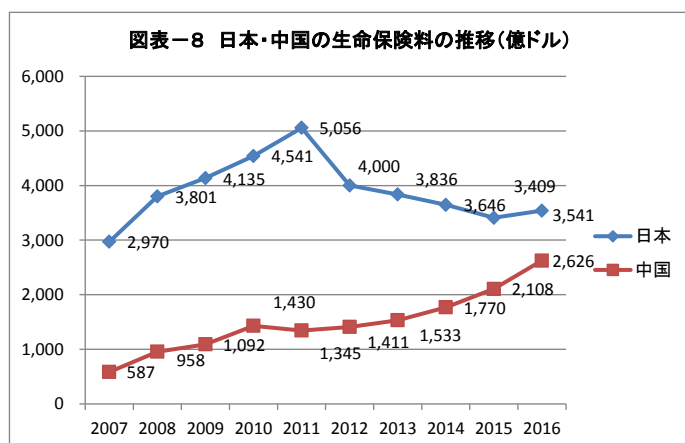
## 2 | 先進アジア地域の生保普及度の変化

図表-6・7で、日本とNIES4の5ヶ国・地域別に、生保普及度(1人当たりの生命保険料と対GDPの生命保険料比率)の20年間の推移を見ると、2016年では、香港と台湾が二つの指標で1-2位にあり、日本は、いずれの指標においても第4位というポジションとなっており、NIES4における生保の普及が進んでいることがここでも示されている。



### 3 | 日本・中国の生保市場規模の推移

次に、アジアにおける国別の生保市場規模について、最大市場である日本と、第2位の市場である中国<sup>1</sup>について、生命保険料収入ベースでの20年間の推移をみる(図表-8)。2007年には、日本と中国の差が2,383億ドルと大きく、中国の市場規模は日本の19.8%にしか過ぎなかったが、中国市場の高伸長の継続による規模の増加により、2016年では、日中の保険料の差は915億ドル、中国の市場規模は日本の74.2%と両者の差は急速に縮小・接近してきており、近い将来、両者のポジションが逆転する可能性があると思われる(本項のテーマに関しては、片山(2017)を参照されたい)。



(資料) スイス再保険会社 Sigma 各号により筆者作成

### 3—市場の競争環境の変化(ASEANの3ヶ国のアジア通貨・金融危機前と現在の比較)

本年は、1997年7月1日のタイ・バーツの為替レートの急落を発端とし、その翌年にかけて、アジア経済に甚大なダメージを与えたアジア通貨・金融危機から20年の節目に当たる。そこで本項では、アセアン諸国の中で、最も大きなダメージを被った3ヶ国(マレーシア、タイ、インドネシア)の生保市場の変化について、各国の競争環境の変化(有力企業の顔ぶれとマーケットシェア、特に外資系企業の存在感の増大)を、アジア通貨・金融危機時の前の1996年と2015年の時点で比較する。

1997-1998年のアジア通貨・金融危機で、アセアン諸国の中で経済が特に厳しいダメージを被った3ヶ国の実質GDPの対前年増減率は、図表-9のとおりであり、1997-1998年(特に1998年)の落ち込みの大きさがわかる。

図表-9 ASEAN3ヶ国におけるアジア通貨・金融危機のダメージ(実質GDP対前年増減率:%)

	1995	1996	1997	1998	1999	2000
マレーシア	9.8	10.0	7.3	▲ 7.4	6.1	8.7
タイ	8.1	5.7	▲ 2.8	▲ 7.6	4.6	4.5
インドネシア	8.2	7.8	4.7	▲ 13.1	0.8	5.0

(資料) IMFデータ (2017年4月)

<sup>1</sup> 2016年の世界ランキングで、日本第2位、中国第3位であり、中国は前年の4位から英国を抜いて順位を上げた。

図表－10 は、1996 年と 2015 年の 3 カ国の生保市場における上位 10 社のマーケットシェアのランキングであり、そこから以下のようなポイントが指摘できる。

図表－10 アセアン3カ国生保市場の上位10社(1996年／2015年:生命保険料収入ベースのマーケットシェア(%))

マレーシア(生命保険料:1996年52.1億リンギ、2015年362.8億リンギ)

順位	1996年	シェア	2015年	シェア
1	Great Eastern (Singapore)	30.2	AIA	19.7
2	AIA	17.6	Great Eastern Life Assurance (Malaysia)	18.8
3	Aetna Universal	9.6	Prudential Assurance Malaysia	15.5
4	Malaysian Assurance	7.6	Hong Leong Assurance	6.9
5	Berjaya Prudential Assurance	6.4	Allianz Life Insurance Malaysia	5.2
6	OAC(Singapore)	6.3	Tokio Marine Life Insurance Malaysia	2.9
7	Hong Leong Assurance	4.1	Etiqa Insurance	2.8
8	John Hancock (現Manulife)	3.1	Manulife Insurance	2.2
9	Asia Life (Singapore)	3.0	Zurich Insurance Malaysia	2.1
10	MCIS	2.9	MCIS	1.5

タイ(生命保険料:1996年557.3億バーツ、2015年5,049.8億バーツ)

順位	1996年	シェア	2015年	シェア
1	AIA	48.9	Muang Thai Life	19.3
2	Thai Life	23.2	Thai Life	13.1
3	Ocean Life	8.9	AIA	12.5
4	Muang Thai	5.8	Krungthai-AXA Life	12.3
5	Ayudhya	4.7	Siam Commercial New York Life	12.2
6	Bangkok Life	2.8	Bangkok Life	9.3
7	South East	1.5	Allianz Ayudhya	5.2
8	Thai Prasit	1.1	Fwd Life	3.8
9	Inter Life	1.1	Prudential Life Assurance (Thailand)	3.6
10	Siam Commercial	1.0	Ocean Life	3.1

インドネシア(生命保険料:1996年2兆8,551億ルピア、2015年158兆5,811億ルピア)

順位	1996年	シェア	2015年	シェア
1	AJB Bumiputera 1912	26.8	PT Prudential Life	20.1
2	PT Lippo Life	16.8	PT Asuransi Allianz Life Indonesia	7.9
3	PT Asuransi Jiwasraya	14.6	PT Indolife Pensiantama	6.9
4	PT Asuransi Jiwa Dharmala Manulife	5.9	PT Central Asia Financial	6.9
5	PT Indolife Pensiantama	5.0	PT AIA Financial	6.9
6	PT Asuransi Jiwa Eka Life	3.0	PT Asuransi Jiwasraya (Persero)	6.8
7	PT Asuransi Jiwa Sewu New York Life	3.0	PT AXA Mandiri Financial Services	5.8
8	PT Bringin Jiwa Sejahtera	2.6	PT Asuransi Jiwa Manulife Indonesia	5.3
9	PT AJ Central Asia Raya	2.4	PT Asuransi Jiwa Sinar Mas MSIG	4.9
10	PT Asuransi Jiwa Bumi Asih Jaya	2.3	PT Asuransi Jiwa Adisarana Wanaartha	3.9

(資料)生命保険文化研究所(1999)、Timetricデータベース、松岡(2017)

アジア通貨・金融危機前には、外資出資規制<sup>2</sup>や外資企業を含めての新規の市場参入に関する規制や当局の方針等があり、その時点でタイ・マレーシアで例外的に支店形態(すなわち 100%自社でコントロール可)での営業が認められていたAIA(1996年当時は米AIGグループ傘下、現在は同グループから独立している)を除けば、外資系企業の本格的な市場参入や合併形態での所有・経営のコントロールは難しい面が多かつ

<sup>2</sup> 外資出資規制については、マレーシアの30%が典型例であり、危機後に70%へ緩和された。

たが、危機後の規制等の緩和により有力な外資企業の本格的な参入とマーケットシェアの拡大が進んでいる。それに代って、地場の有力企業のポジションの低下事例がみられる<sup>3</sup>。

外資系企業としては、特に、AIA、Prudential（英国）、Manulife（カナダ）、Allianz（ドイツ）、AXA（フランス）などのプレゼンスが大きくなっている。タイでは、危機前に5割近いマーケットシェアを保有していたAIAのマーケットシェアが、競争激化の中で約13%と縮小しているが、タイ生保市場の規模が、2015年には1996年の9倍強と大幅に増加している中で、AIAの生命保険料収入（現地通貨ベースの金額）も2.3倍と大きく増えている。

このように外資規制や市場への参入条件の緩和などを契機として、有力な外資企業が新興国の生保市場でマーケットシェアを拡大する傾向があり、このことは、現在、外資出資規制が強い中国とインドなどにおいても、将来、規制の緩和が行われた場合には同様の事象が起きる可能性を示唆していると考えられる。

また、上記のタイにおけるAIAのシェアの大幅な縮小を典型例として、各市場の拡大・変化の中で、有力なプレーヤーの顔ぶれや、そのポジションも大きく変化する可能性も示されており、欧米日やアジア域内の有力保険企業間での競争環境の更なる変化を予期しうると言えよう。

#### 〈参考文献〉

IMF (2017), *World Economic Outlook Database (April, 2017)*.

Ins Communications, *Asia Insurance Review* 各号.

Ins Communications (2017), *Insurance Directory of Asia 2017*.

スイス再保険 (Swiss Re) (2017), *sigma 3/2017: WORLD INSURANCE IN 2016: THE CHINA GROWTH ENGINE*

*STEAMS AHEAD*. および同 *WORLD INSURANCE* 各年版.

生命保険文化研究所 (1999) 『東アジアの生命保険市場』.

片山ゆき (2017) 「[中国保険市場、米国に次いで2位に？－世界における中国のプレゼンス 中国保険市場の最新動向\(24\)](#)」 『保険・年金フォーカス』ニッセイ基礎研究所.

平賀富一 (2015) 「[アジア地域で大きなプレゼンスを有する外資大手生保の経営・営業の特徴点は何か？](#)」 『基礎研レター』ニッセイ基礎研究所.

平賀富一 (2016) 『生命保険企業のグローバル経営戦略－欧米系有力企業のアジア事業展開を中心として』文眞堂.

松岡博司 (2017) 「[成長するインドネシア生保市場と外資系生保の幸せな関係－市場活性化・高度化に貢献し覇権を達成－特色ある特約付きユニットリンク保険の販売－](#)」 『基礎研レポート』ニッセイ基礎研究所.

ミュンヘン再保険 (Munich Re) (2017), *Insurance Market Outlook for 2017/2018*.

Timetric データベース.

<sup>3</sup> インドネシア生保市場の有力企業の変化に関する詳細な分析は、松岡（2017）を参照されたい。